国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院
National Center for Global Health and Medicine
http://www.ncgm.go.jp/
発　行　連携医療ネット
住　所　東京都新宿区戸山1-21-1
代 表　ＴＥＬ　03-3202-7181
ＦＡＸ　03-3207-1038
地域医療連携室
直 通　ＴＥＬ　03-3202-8066
ＦＡＸ　03-3202-1003

連携医療NEWS

Vol.33　7月号

内　　容
・NICUにおける超低出生体重児受け入れ態勢の強化について ・・・・・・・・・・・・・・・1
・三次元形状解析による体表の形態的診断 ・・2
旬の味覚
・新任あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・3
連携医の紹介
・看護通信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

NICUにおける超低出生体重児受け入れ態勢の強化について

第一新生児科医長
五石　圭司

現在、国立国際医療研究センター病院小児科では小児がん、循環器、精神神経、新生児を専門分野の柱とした総合的な医療に力を入れています。私は新生児医療を専門とし、主にNICU（新生児集中治療室）およびGCU（新生児後方病床）に勤務しています。

NICUで行われる新生児医療、中でも超低出生体重児（出生体重1,000g未満）、あるいは超早産児（在胎週数28週未満）を診療するいわゆる『未熟児医療』は、ここ10-20年の間に劇的な発展・進化を遂げた分野の一つです。様々な医療機器や薬剤の開発、治療技術の進歩により、こうした未熟性の強い児の救命率は年々向上してきました。それとともに、救命できた早産児の長期予後が徐々に明らかになり、”Rescue(救命)”だけではなく”Intact survival（後遺症無き生存）”を強く求められる時代になりつつあります。

一方、社会的な背景をみると、我が国では総出生数が減少傾向であるにもかかわらず、低出生体重児の出生数は年々増加しています。これには下記の表のような様々な要因が関与しているとされていますが、晩婚化や女性の“やせ”傾向など社会問題化しているものもあり、なかなか対処が困難なのが現状です。他方、周産期関連施設については、都内あるいはその近県で、産科、新生児科とも施設数が減少傾向であることは周知の事実であり、そのために既存施設で周産期医療を担う医師の負担がさらに増すという悪循環に陥っています。

表：我が国における低出生体重児増加の要因
・晩婚化、妊娠・出産年齢の高齢化
・不妊治療の普及に伴う多胎の増加
・成人女性での“やせ”（BMI 18.5未満）の増加
・若年女性の喫煙率の増加

当院は大規模大学病院や小児専門病院以外では珍しいことに、小児科を志す若い医師が数多く在籍しています。中にはこの病院の特色でもある国際医療の現場、つまり発展途上国の周産期医療を現地で目の当たりにした経験を持つ医師も多く、様々な問題意識をもって周産期医療に携わっています。こうした環境のもと、当院NICUでは医師・看護師他スタッフが一丸となって、低出生体重児の受け入れ態勢の充実を図ってきました。そして6月1日より、NICUの受け入れ対象早産児を在胎28週以降から在胎26週以降に引き下げることとなりました。現在、受け入れ対象拡大後約1ヶ月、大きな問題はなく経過していますが、今後、安全で質の高い、かつ赤ちゃんとその親御様に優しい新生児医療の提供を目標に、さらなる受け入れ拡大に向けて態勢整備を図っていく予定です。どうかご支援の程、よろしくお願いいたします。

先進医療　三次元形状解析による体表の形態的診断

歯科口腔外科診療科長
丸岡　豊

はじめに

歯科・口腔外科では、虫歯や歯周病、顎関節症などの治療はもちろんですが、上下顎骨の腫瘍や骨折などの手術も担当しています。とくにうけ口などの顎変形症の手術（顎矯正手術）は当科の得意とするところです。

同手術では咬合のみならず顔貌も大きく変わります。術前後の顔面の形態変化を記録する試みは直接顔面の型を採る方法や、CTなどを撮る方法などいろいろとなされてきましたが、再現性の問題やX線被ばくの問題などから様々な問題点が指摘されていました。

レーザー三次元曲面形状計測装置について

本先進医療にて用いる三次元曲面形状計測装置は、それらの問題点を克服しうる画期的な器械です。本装置はレーザー光を利用し、患者さんの顔に全く触れることなく三次元曲面形状計測を行い、顔面形態をデータ化したのちコンピュータにデジタル入力し、三次元的に解析・診断を行うことが可能です。

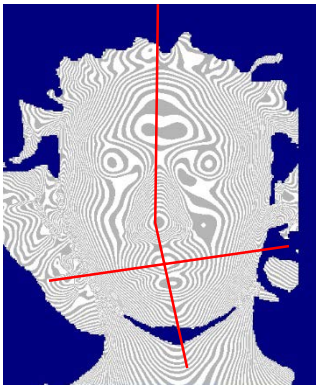
症例1は非対称症例ですが、手術により顔面の非対称が治っているのが直感的に理解できます。また症例2ではス ーパーインポーズ法により、術前後の顎顔面形態変化が非常によくわかります。

ここに挙げたのはほんの一部の機能にすぎません。プログラムの改変も随時行っており、特定の部位の体積や任意の２点間の直線／曲面距離などの測定も可能です。

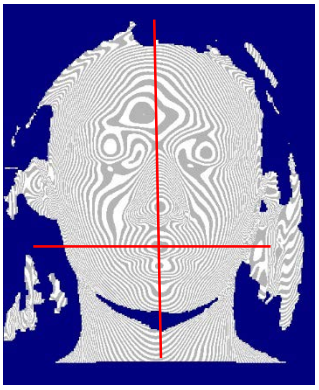
現在のところ、顎変形症の患者さんの解析にしか対応しておりませんが、今後は顎骨以外の頬骨や鼻骨などの顔面骨骨折や炎症などによる変形性疾患の分析など対象を広げていきたいと考えております。

連携医の先生方には今後とも何卒よろしくお願い致します。

症例1: 上下顎非対称症例

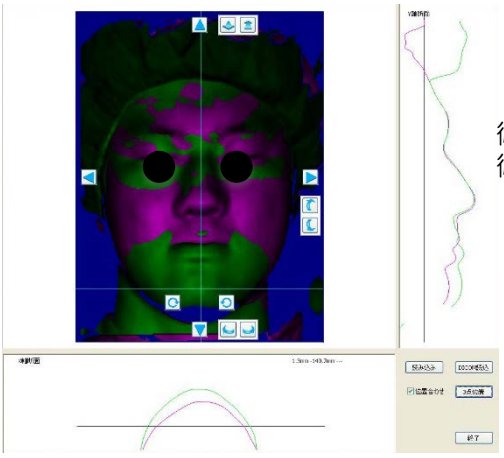


術前のモアレ分析



同　術後のモアレ分析

症例2：下顎前突・上顎後退症例の術前後比較



術前：緑線
術後：紫線

新任あいさつ

第二整形外科医長

宮本　恵成

このたび2015年4月1日より国立国際医療研究センター整形外科に着任致しました宮本恵成（みやもとよしなり）と申します。整形外科の各分野の中でも特に膝関節疾患・人工膝関節と骨粗鬆症を専門としております。

私は1995年に大学を卒業後、東京大学整形外科に入局し関連病院を回って臨床医としての経験を積みました。2002年に大学に助手として戻った後、いったん研究者として変形性膝関節症の発症に関わる遺伝子の研究等をしておりましたが、2007年より前所属先である東京都健康長寿医療センターに臨床医として戻り、以来主に高齢者を対象とした診療に従事して参りました。

高齢化に伴い、変形性膝関節症（膝OA）の患者は年々増加しています。当センターでは、膝OAの保存的加療および手術加療に積極的に取り組んでおります。手術としては人工膝関節全置換術（TKA）が主で、内側型膝OAで適応がある方には人工膝関節単顆置換術（UKA）も行っています。UKAは内側のみの置換であるため、侵襲が低く術後のADL回復も早いという特徴があります。当センターでは手術の決定に際して、合併症や心肺機能なども含めて総合的に評価し、年齢のみにとらわれずに手術適応を判断しております。

この高齢化社会においては骨粗鬆症の診療も大変重要な分野となってきております。現在続々と新薬が登場してきており、また将来に向けて開発が進んでいる薬剤も多く、最近特に発展が著しい分野であるとも言えます。当センターではそのような最新の知見も随時取り入れながら、各患者様に最適な骨粗鬆症治療を提供できるよう取り組んでいきたいと思います。また当センターでは高齢者の骨折手術も多く取り扱っておりますが、そのような患者様は再度骨折するリスクも高いため、退院後も骨粗鬆症治療の継続が欠かせません。このためには連携医の皆様との円滑な情報交換が重要と考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

連携登録医のご紹介

悠翔会在宅クリニック早稲田

院長　三上　巌　先生

診療科	内科、皮膚科、精神科、整形外科、歯科
住所	東京都新宿区戸塚町1-102-14
電話	03-3200-8336
FAX	03-3200-8341
診療時間	9：00～18：00
休診日	日曜、祝日
交通	東京メトロ早稲田駅徒歩3分
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ	http://www.yushoukai.jp

当クリニックは、平成20年12月に早稲田大学近郊に開院し、新宿区を中心に活動する「機能強化型在宅療養支援診療所（24時間体制）」として、患者様・ご家族様を支えています。地域密着をモットーに、常勤医師3名・非常勤医師2名・精神科医師2名・皮膚科医師1名・整形外科医師1名・理学療法士1名・看護師3名が在籍し、地域医療に貢献できるよう日々努力しております。

また、歯科医師・栄養士が医療法人社団悠翔会の本部に在籍しており、御要望に応じて御自宅に「訪問歯科診療」や「訪問栄養指導」も行っております。

ケアマネージャー・訪問看護師をはじめとした、多くの職種の皆様と連携しながら、患者様・ご家族と相談し、御要望にあった医療を提供していきたいと考えております。

患者様が、御自宅で穏やかに安心し安全に過ごすことができるよう、職員一同頑張ってまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

医師人事異動

採用			退職		
発令日	役職名	氏　名	発令日	役職名	氏　名
H27.7.1	第二泌尿器科医長	山田　大介	H27.6.30	第二泌尿器科医長	永田　政義
			H27.6.30	臨床検査室医長	赤平　百絵

看護通信

看護部では、5月12日（火）
看護週間にちなんで「看護の日」イベントを開催しました。
この日を中心に2週間ほどアトリウムに看護場面の写真を掲示したり、当日は骨密度測定、ハンドマッサージなど、普段はなかなか患者様にできないケアを行うことが出来ました。
参加していただいた、皆様からも「感謝のお言葉」をいただき、看護スタッフにとってとても励みになりました。
可能であれば、コンサートやイベントをさらに多く開催し開かれた地域の病院として、ご来院の際に、診療ばかりでなく「安らぎの場」としてもご利用いただけるよう努力してまいりたいと思います。

画像検査予約の紹介

インターネットで画像検査の予約ができます

～予約から検査までの流れが簡単になります～

C@Rna導入前

1.予約状況の確認
2.予約空き状況の連絡
3.患者さんに確認
4.予約日時確定
5.紹介状作成
6.紹介患者さん受け入れ準備
7.患者さん来院
8.結果報告
9.検査報告や所見レポートの送付

C@Rna導入後

1.患者さんと画面を見ながら
・予約日時を決定
・同時に紹介状作成
2. 紹介患者さん受け入れ準備
3.患者さん来院
4.検査結果報告
5.検査報告や所見レポートの送付

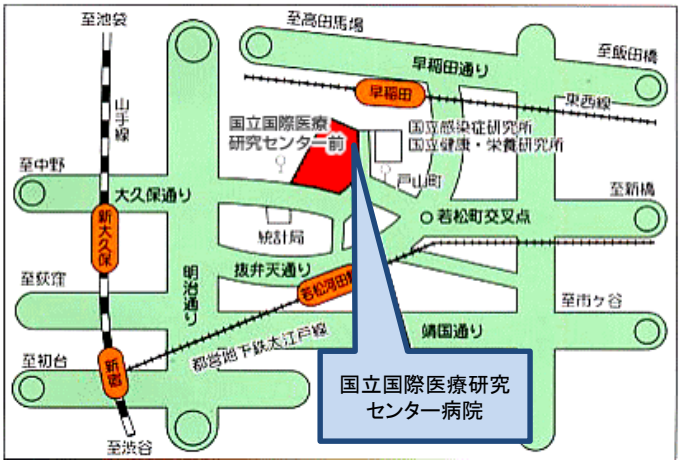
➢連携医様からの画像検査依頼の電話で予約台帳を見ながらやり取りして日時を決めていた
➢予約の確認、診療情報提供書、FAXのやり取りが面倒

➢インターネットの環境が有れば無料で使用できます
➢診療時間に関係なく、24時間365日予約が可能です
➢患者さんの都合を聞きながらその場で予約決定できます
➢患者さん用注意書、検査説明書等々がパソコンからプリントアウトできます

お問い合わせ：放射線診療部　画像検査受付　03-5273-5244

外来診療時間　　8：30～17：15
・初診受付　紹介状が無い場合　　8：30～11：00
　　紹介状が有る場合　　8：30～14：00
ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。
・休診日　　土・日・祝日・年末年始

アクセス
・都営地下鉄 大江戸線「若松河田駅」より徒歩5分
・東京メトロ 東西線「早稲田駅」2番出口より徒歩15分
・JR大久保駅又は新大久保駅より都営バス「新橋」行
　国立国際医療研究センター前 下車
・新宿駅西口より都営バス「医療センター経由女子医大」行
　国立国際医療研究センター前 下車



国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院　〒162-8655　東京都新宿区戸山1-21-1
TEL　03-3202-7181　FAX　03-3207-1038　ホームページ　http://www.ncgm.go.jp/